

地域経済へ銀行の果たす役割とは

9月20日、民主会館で愛知金融革新懇が名城大の井内尚樹教授を講師に「コロナ禍の下で見えてきた地域を支援する金融の役割」と題した学習交流会を開催しました。

井内教授の講演要旨（事務室責任で要約）

二つの選択肢

◇世界的規模での産業構造の転換期それにコロナ禍が重なり、生命の分岐点に立っている。グローバル経済の方向に行くのか、小規模・分散型の循環型地域経済の方向か、明確な経済ビジョンが必要。その際、金融の役割は重要である。菅内閣はさらなる規制緩和・「地銀の再編」を公言している

◇（政府は）異次元の金融緩和政策で公的



当日は地域や職場、愛商連関係者など24人が参加し活発な討議や意見交流が行われました。金融革新懇は、10数年ぶりの活動再開でしたが「今後も継続していきたい」と挨拶を行いました。

年金資金で161.7兆円もの株式購入、他方で国民の預金はゼロ金利、「マイナズ金利」で地銀にビジネスモデルの転換を政府は要請している。まともな金融行政だろうか



従業員も顧客も

◇金融業界の労働環境も激変した。相次ぐ規制緩和で今では全行員の80%以上が非正規の社員である。人事制度も年功型賃金から、能力中心の人事制度と称してコース別人事制度「総合職と一般職」導入するが、人件費削減の太い線で貫かれている。そもそも、従業員を大事にしないような企業は、顧客も大事にしないことは自明である。

二つの役割 気候変動とスモールファースト

◇SDGs投資、温暖化対応投資、持続可能な経済に投資する銀行かどうか？小企業が中心の地域経済に貢献する銀行かどうか？問われている。菅政権では規制緩和、市場経済主義→儲かる市場への傾斜に向かっていく。社会貢献、地域貢献ができる金融へ踏み出すことが重要である。

「社会貢献、地域貢献ができる金融へ」に共感

講演を受け、会場からの発言を紹介します。

◆ドイツはなぜ原発廃止にかじを切り今回のコロナでも庶民や零細企業に手厚い援助ができたのか（井内教授からは、三憲章を作り市民との合意形成があり公助の理解ができていたことが大きい、との補足説明がありました）

◆愛知には17万の中小企業があるが開業より廃業のほうが多い。三菱UFJも9000人の合理化計画をかなりの店舗廃止を打ち出している。地域に貢献できる銀行への運動が必要では

◆ゼロ金利政策で、国民生活も厳しくなっているが、大半の銀行が赤字経営に陥っている。「預金者、借入者、銀行」の三方とも大変な状況に直面している。アベノミクスは失敗で変えなければ。

◆プロパー融資（直接融資）をコメントした

コロナ融資に借り換えさせている。

返済が始まるころには顧客、銀行、信金とも不安が広がる心配がある。ルールある融資姿勢が問われている

◆職場では、入行9か月の若者が自殺がでていた。

・過度なノルマとパワハラ
・昼食時間もないほどの過重労働
・朝、夕、土、日の不払い労働
・ゆとりもなくなっている
などで精神障害、うつ病、自殺のパターンが強まっている。こうした実態を告発していきたい。

◆気候変動への金融の役割など講師の話には「その通り」だと痛感した

これからもよろしくお願いします

あいち金融革新懇事務室

金融革新懇は長い間休眠していましたが、コロナ禍など社会情勢の大きな変動の下で6月以降相談を繰り返しながら再開を決定し、第1回目の企画を皆さんのご協力で開催することができました。これからも、ニュースの発行を土台に適宜に企画なども組んで継続していく決意です。いっそうのご支援、ご協力をお願いいたします。

あいち金融革新懇事務室長 大野克良



あいち金融革新懇ニュース NO.1
2020年10月
連絡先 革新愛知の会 (052-872-6918)